

令和6年度 日常生活圏域ケア会議活動実績

令和7年1月末現在

1 概要

開催目的	日常生活圏域内における個別地域ケア会議で抽出された地域課題及び個別地域ケア会議で解決することができなかった課題の解決に向けた協議を行い、必要に応じ呉市地域ケア推進会議にこれを提案することを目的とする。
実施方法	主体：高齢者相談室（地域包括支援センター）又は呉市（必要に応じて実施）
参加者	高齢者相談室（地域包括支援センター）職員、介護支援専門員、介護サービス事業者、保健医療従事者、民生委員児童委員、住民組織、生活支援コーディネーター、行政職員等
令和5年度に把握した課題	<ul style="list-style-type: none"> ・坂道や狭い道に面している等、移動が困難な地域に居住している方への買い物やごみ出し、通院時等における移動支援をどうすべきか。 ・見守りをする側の高齢化に伴うなり手不足が深刻化している中で、担い手を増やすための仕組みやサイクルをどのように構築していくか。 ・生活課題重大化予防のため、地域住民の気づきや相談等を早期に高齢者相談室（地域包括支援センター）へ集約し、関係者間で情報共有や解決に向けての協議をする仕組みが必要
令和6年度に取り組んだ内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての圏域において年度内2回の地域ケア会議開催を目指し、各高齢者相談室（地域包括支援センター）が主体となって活動している。1回目の地域ケア会議で、参加者から個別事例の集積・分析、地域課題の抽出をし、2回目の地域ケア会議で、解決に向けた具体的な協議をする。
改善効果	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域課題解決のために協力が必要と想定される関係者に参加してもらうことで、顔の見える関係性が構築され、それぞれの強みを活かした幅広い解決策の検討が期待できる。

2 開催実績

(回)

	中央	天応・吉浦	昭和	宮原・警固屋	東部	川尻・安浦	安芸灘	音戸・倉橋	計
令和4年度	1	1	1	0	2	1	0	4	10
令和5年度	1	2	2	0	2	2	1	2	12
令和6年度	2 (予定)	2 (予定)	2	2 (予定)	4	2 (予定)	2 (予定)	2 (予定)	18

3 圏域別取組み内容

地域	個別地域ケア会議からの地域課題	解決に向けた対応	日常生活圏域に残った課題	全市に共通すると思われる課題
中央	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関からの相談のうち、退院時カンファレンス参加依頼が22%と対応依頼（退院してから訪問してほしい）の57%と比較すると大きく下回っている。 ・退院時カンファレンスの開催は病院側からすると負担が大きいかもしれないので、もう少し簡単に連携する方法を検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中央地区の医療・介護関係者が集まる研修会・意見交換会の場を定期的に企画開催し、関係者と密な連携体制を構築する。 ・中央地域でのルールづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護関係者それぞれで感じている課題が異なっており、全員の課題を解決できる具体的な方策を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護関係者との連携体制構築及び連携目的の明確化
天応・吉浦	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会館がないため、地域の方との交流する場所がなく、つながりが薄れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンや百歳体操等、少人数でも集まることができる場所をつくる。 ・高齢独居世帯や高齢世のみの世帯が多いので、近所同士で声かけをする。 ・祭りや川掃除等を通して地域で交流する。 ・若い世代はソフトボールやバレーボールを通して交流している若い世代に協力してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場をどのようにつくっていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者を含めた全世代が交流する場所がない。

地域	個別地域ケア会議からの地域課題	解決に向けた対応	日常生活圏域に残った課題	全市に共通すると思われる課題
昭和	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居であっても比較的元気な高齢者は見守り対象から漏れがちで、緊急時連絡先等が不明な人もいる。 ・ 自立している独居高齢者が入院等で長期不在になると、緊急時連絡先等を知らないため、安否確認のため警察を呼ぶ等の騒動が起こっている。 ・ 買い物やゴミ出しが困難となっている方が増えている。 ・ 住民のつながりが薄れてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員の定例訪問を通じて、65歳以上の全ての方の連絡先を可能な限り把握する。 ・ 病院入院時に、自身の所在を誰かに伝えているかを聞き取っていただくよう在宅医療・介護連携推進コーディネーターを通して、関係者に検討してもらう。 ・ 隣近所の関係を強化するための声かけや異変を発見した際の連絡ルートづくりについて、地域で協議してもらう。 ・ 買い物に関する既存の様々なサービスを活用してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民一人一人の自助・互助意識をどのように高めていくか。 ・ 買い物には行けるが、帰りに買った物を持って坂道を登れない。 ・ ごみを持って収集所まで歩けない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣住民同士の関係が希薄化している中で、住民一人一人の自助・互助意識を高める方法の創出 ・ バスは便数が減り、タクシーは呼んでも来るまでに1時間程度かかるため、外出するための移動手段がない。
宮原・警固屋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居高齢者の病院受診が困難である。 ・ 地域との関係が希薄な高齢者にどのように関わっていけばよいか。 ・ かかりつけ医を持っていない高齢者がいる。 ・ 退院時の支援体制に課題がある。 			
東部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢化・過疎化の進行に伴い、認知症や介護の相談が増えている。 ・ 身寄りのない高齢者をどのように支えたらいいかわからず、困っても誰を頼ればいいのか分からない。 ・ 急傾斜地で車が入れない地区がある。 ・ スーパーやゴミ収集所まで遠く、高齢になるにつれて自力では行けなくなる。 ・ ヘルパー等地域資源が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会や老人会等が協力し、まずは地域の人が集まって雑談できる場づくりを始めてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集会所まで来れない人をどうするか。 ・ 地域活動の世話人を集められるか。 ・ 活動資金をどうやって捻出するか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動を継続していくための支援
川尻・安浦	<ul style="list-style-type: none"> ・ 孤立化する高齢者が増えており、地域包括支援センターが介入する段階では重度の認知症や低栄養、疾病から寝たきりの状態となっており、施設入所せざるを得ないケースが増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何かあった際には専門職につながって支援が受けられるよう、専門職同士で顔の見える関係をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民一人一人の自助・互助意識をどのように高めていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣住民同士の関係が希薄化している中で、住民一人一人の自助・互助意識を高める方法の創出
安芸灘	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身寄りのない方の緊急対応、緊急連絡先のツールが確保できていない。 ・ 高齢者が退院した後の地域内での情報共有が不十分である。 ・ 高齢者に関わる支援者間の情報共有・関係性が曖昧である。 ・ 高齢者を支える側も高齢化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援において、緊急時の情報を確保・共有することが重要であることを地域住民に理解してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのような緊急時情報ツールであれば地域で効果的に活用できるかを検討するための課題の洗い出しが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誰もが活用可能な緊急時情報ツールの導入
音戸・倉橋	<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみ出しが困難な方へのサポート手段がないため、暮らしにくさが増している。 ・ 福祉専門職が訪問時に車両を停車できる場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域性を生かした住民主体による課題解決のための新たな取組の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決のための取組の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民主体による地域課題を解決するための取組の創出

<p>令和6 年度 に把握 した 課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物やごみ出し，通院時等における移動が困難な方が多いのは全地域共通の課題であるが，地域住民の力で解決できることはないかを考えようにも，住民同士のつながりの希薄化が進んでおり，協力体制がつかれない。 ・生活課題重大化予防のため，地域住民の気づきや相談等を早期に高齢者相談室（地域包括支援センター）へ集約し，関係者間で情報共有や解決に向けての協議をする仕組みが必要
<p>対応 方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題は共通する部分が多いが，圏域ごとに状況や資源が異なるため，各圏域において必要と考える関係者を地域住民がいる協議の場に招集し，意識共有を丁寧に行いながら現実的な解決策を検討していく。